



発行 今井町並み保存会  
発行日 平成25年1月1日  
電話 0744-22-1128  
http://www3.kcn.ne.jp/~imaicho/  
e-mail imaicho@m3.kcn.ne.jp  
◇ご意見・ご感想は  
今井まちづくりセンターまで

## 年頭の挨拶

今井町並み保存会 会長 若林 稔

新年明けましておめでとうございます。

今井町の東地区が今年は新しい今井町の顔としてお披露目されます。

重伝建地区内の率川を犠牲にして生まれ、た公園設備だという事を肝に銘じ、意義ある活用をしていかなければならないと思います。また、西地区で発見された織田信長に関わる三重堀は忠実な復元を期待するところで基本計画が待たれるところです。

こうした中であって今井町並み保存会では昨年9日間の長丁場で開催した今井町並み散歩が、期間中計5万人の来町者を迎え、また、夏の灯火会では7500灯の灯かりを町中に灯すことが出来ました。

これも偏に皆さんが心を同じくして行事を遂行して下さったおかげと感謝申し上げます。

「町づくりは人づくりから」と言います。長年かけて保存活動を継続してきた今井町は日本中から参考になされ、全国各地の保存地区や、有識者、学生たちは言うに及ばず、海外からも大勢研修に来町され、保存活動を学ばせて頂きましたと沢山のお礼も頂いております。

新たに迎えます平成25年も「保存と活性の両立」へと歩む決意を継続するところですが、幸い若い方の活動も増え、これまでの方々の力とつなぎ合わせて、町中のみなさんが参加できる色々な取り組みを企画していきたいと思っております。

また、外に向かつては世界に誇りうる今井町の保存資産を更にPRし、世界遺産に向けての意志を発揮するとともに、県下の学校などを通じて次世代を担う子供たちにも保存の大切さを知らせていきたいと思っております。

これらを実行するには皆さんのご協力を欠かすことが出来ません。

ご協力、ご支援のほどよろしくお願いいたしますとともに、みなさんにとって佳き年になりますように祈念いたしまして年頭の挨拶とさせていただきます。

## 第35回全国町並みゼミ福岡大会報告

若林 稔

全国町並みゼミ福岡大会は「地域遺産の再発見とまちの魅力創出」福岡から活かそう町並みとアジア文化」をスローガンに、これか

らの町や地域の景観はどうあるべきか、どう想像して行くべきかを主体に全国から集まった町づくりの仲間たちが11月30日から12月2日まで3日間にわたり、博多市内を中心会場に熱い議論を繰り広げた。

大会の流れは1日目の座談会、各地からの報告、2日目の6つの分科会、そして最終日のシンポジウムを通して1200名の参加者が、伝建地区を含むあらゆる町づくりにおいて歴史的資源を継承することの重要性を確認し、町並み保存運動の新たな展開へ向けていっそう活動を強化する決意を新たにすることを確認し合った。

さて、前回の飛騨市大会からの1年間では、永い戦いが続いた瀬の浦の保存問題で広島県知事が埋め立て架橋事業の撤回を決定したが、これは小樽運河問題以来、歴史的環境を破壊する公共事業と戦ってきた町並み運動の大きな成果である。

もう一つは重要伝統的建造物群保存地区が百力所を超えた。重伝建制度は歴史的な町並みを保存する方法としてすっかり身近なものとなった感がある。

各地からの報告と2日目の各分科会で確認されたのは、町並み保存の新たな局面である。

第一は都市開発が進んだ市街地において、改めて歴史的な起源を持つ町割、マンションや高いビルの影に点々と遺る町屋や寺院、細く曲がりくねった道、などそこそこに刻まれた歴史がこれまでも増して町づくりの重要

な資源と考えられるようになった。

第二は「ルールと補助金」で、建物を直す補助制度の定着を受けて、空き家の再生と利用が重要課題となってきたことである。今や「町屋の再生と活性化」が各地の運動の主要な課題として、経験が積み重ねられつつある。アジアとの連携も福岡大会の重要なテーマであった。

確認されたことは人口の減少や空き家の増加など、基本的な課題は各国に共通することである。

今大会の成果をもとに各団体は全国町並み保存連盟を核に相互にネットワークの構築につとめることを誓い合った。



私は全国町並み保存連盟の監事を拝命しているので1日早い29日の理事会から参加したが、全日程を通して感じたことは、いつの時代にも今井町は日本の町並み保存の最

先端を歩いていることは間違いない誇りであるが、若者や中年層が中心になって活躍し、新たな町おこしが各地域で活発に行われるようになってきているのを目の当たりにして、一層の頑張りを決意させられた4日間であった。

第3回今井町歩き勉強会報告

### 重文高木家と今井東地区

まず、重文河合家の西側にあった高木家の本家「四条屋」の八つ棟の写真を見ながら、御当主の話を伺いました。重文高木家は幕末を代表する建築で、2階へ登るはこの代わり箱階段が設けられており、2階が使用人



二階の窓も虫籠窓から出格子窓になりまして、開放的になっています。煙り出しも上には出ていませんで、東側に灯りをとるために2か所の煙り出しをとっています。

(高木氏談)

の住み込みの部屋ではなく、借家からの通いになってくるなど雇用形態の変化も話していただきました。また違い櫓が設けられた書院造の座敷は、この時代頃から町人にも許されるようになり、大変珍しいそうです。所蔵品の双六や貝原益軒の版本も拝見させていただきました。

その後、一行は町歩きで西光寺の隣にあった成亨座の話などで盛り上がり、今井町の成

立の中で、西から発達してきた町が東へ広がり、新町を形成したことを背割り水路から確認しました。

最後に今、整備中の東地区で奥田さん所有の写真を見ながら、柳が植えられた率川に皆で思いをはせました。

### 留学生今井見学



AFS日本協会を通じ、日本に留学している学生の皆さん24人が今井を訪れました。今回は絆プロジェクトとして東北に行ってきた方たちの要望で、消防団の設備も見学され

ました。

オーストラリアでは日本と同じように普段別の仕事を持っている人たちが組織された災害ボランティアが活躍されているそうです。

### 今井往来

12月28日(金) 30(日)

年末警戒・夜回り

12月31日(月) 大祓式・除夜祭り(各寺社)

甘酒ふるまい、太鼓楼見学(称念寺)

1月8日(火) 恵比寿祭(春日神社)

1月14日(月) 大とんど(春日神社)